その時、どう動くか。

絵本「火山はめざめる」(福音館書店)P10-11

浅間山の「天明の大噴火」を再現した絵。上空30キロまで噴煙が上昇、噴煙柱を取り巻くスカートのような雲は上昇気流による。このように高い噴煙柱が長く維持される噴火をプリニー式という。

「その時」は突然やってくる。

災害に強いと言われる本県だが、5つの活火山(浅間山、草津白根山、日光白根山、赤城山、榛名山)を抱える火山県でもある。それは温泉や登山、景色など観光資源として県民に恩恵を与える一方、噴火によって災害をもたらす。

毎日目にし、親しんでいる火山の素顔を、私たちはどれほど知っているだろうか。最近では2014年の御嶽山、昨年の本白根山、そして今月7日の浅間山と、予告なしで噴火したケースが目立つ。

大噴火が起これば、いや応なしに日常がのみ込まれてしまう。ただ、先人の残した記録や地域に残る痕跡から、災害の歴史は知ることはできる。

「その時」、私たちはどう動けばいいのか。集中豪雨すら珍しくなくなった昨今、災害リスクと向き合うことが、命を守る第一歩。地域の過去の災害に学び、未来につなげよう。

目次

P 2-3　防災・減災シンポジウム
P 4-5　「鎌原」から考える浅間山　北麓クイズラリー
　　噴火警報レベル
　　絵本「火山はめざめる」著者インタビュー
P 6　大雨「警戒レベル」
P 7　体験談から実践する防災術

企画・制作／上毛新聞社営業局